

超新星型判定を目的とした鹿児島大学1m望遠鏡用可視光分光器の開発

鹿児島大学大学院 理工学研究科 物理・宇宙プログラム M2 中本 幸成

【具体的な設計目標】

- ①1m望遠鏡とkSIRIUSの間の空間に設置可能な構造
- ②超新星の型判別が可能な波長分解能
⇒可視波長域で全体で $R \geq 100$
- ③可能な限り深い限界等級
⇒スループットを考慮した光学素子の選定
⇒ $S/N \geq 10$ 積分時間1200sで17等程度を想定

～今後の流れ～

実験室での光学試験
(焦点位置や結像性能の評価)



鹿児島1m望遠鏡への搭載と実際の観測

